

# へいさんの風

第13号

発行 平成30年12月10日  
平三地区小域福祉ネット  
広報部会  
平三地区町会  
発行責任者 朝生 義雄



OSSAKUN

南総盆踊り大会への御協力に対し、心よりお礼を申し上げます。皆様のご理解とご協力のお陰をもちまして、盛大なお祭りを開催することが出来ました。四五〇名以上の皆様にご参加いただき、近年の南総地区盆踊り大会を大きく上回る参加者となりました。



南総地区町会長をはじめ、多くの来賓の方々からも、お褒めの言葉、次回への期待のお話をいただいております。特に、平三地区の皆様の団結力、協調性に対し大変な評価をいただきました。

今日から次の南総盆踊り大会へ向けて、全地区民の力を結集し、常に安全で安心な、そして元気な平三地区創りを目指していきたいと考えております。何卒ご理解とご協力を重ねてお願いを申し上げ、御礼とさせていただきます。

平成三十年九月

平三地区町会長会  
会長 鳥海 哲男  
委員長 南総盆踊り大会  
委員長 鳥海 敏博  
実行委員一同

平三地区民の皆様

8/14

## 南総盆踊り大会が開催されました



更に、情報交換や新しい情報を得る場にもなるよう色々な方々をお招きしての講話もなるべく設定するようにした。



会長 石川 勝

また、会員が健康で元気に行きたいと考へております。今ままで上がらなかつた手が上がるようになります。運動の効果が少しだけ出でてきているようです。

曜日の13時から健康体操（いあんぱい体操）にも取り組み始めており、現在の体操参加メンバーは12人前後である。今後、会の活動が交流の場として定着し、更に活動への参加者が増え、自助・共助の意識の高い平沢親友会でありたい。

## 平沢親友会の活動

平沢町会では、少子化・高齢化が進み地区民の交流が希薄になってきている。そこで2年前より、老人クラブの渡辺前会長が中心となり親友会を立ち上げ、奇数月の土曜日に茶話会を設定した。会員となるべく多く参加してくれるよう軽食を準備し、楽しみのある交流の場になるようとした。

## 今年も開催 夏のお楽しみ会

8月5日（日）10時から旧平三小学校で実施しました。

参加者は7家庭18名と役員9名の27名でした。当日は10時過ぎから家庭科室でお米研ぎとカレー作りに取りかかりました。コメの給水タイム中に火おこしの準備をし、多少給水不足でしたが11個の飯ごうが焚かれ始めました。

「始めちよろちよろ…」のはずでしたが一気に火が付き、勢いづいてしまいました。蓋の様子と吹きこぼれを見続け、一度おろして中を見てみたところ、誰もが予想した以上のお焼きあがりでした。蒸らした後、器によそり、釜で作ったカレーをかけて図書室で食べました。

午後からはスイカ割りです。目隠しをした子も、しない子（幼児）も竹の棒を振り下ろす方向に悪戦苦闘していました。

会長  
こども部会

金高元郎

その後スイカをたっぷり頂きました。

2時から終わりの会をして記念の集合写真を撮り、解散しました。

熱中症や怪我を、そして飯ごうでの焼け具合を心配しながらでしたが、子ども達がカレーを食べている様子、スイカ割りで棒を振り下ろしている時の笑顔を見たりでき、役員一同も楽しい時間をお過ごすことができました。



# こども部会 芋ほり大会

10月13日（土）

鶴舞小学校1、2年生が

春に植えたさつまいもを今回  
はPTAを通じて1、2年  
生保護者同伴での参加のも  
と実施しました。

当日は曇り空で少々寒く  
雨の心配もある中、19組が  
参加しました。役員を含め  
60人での芋掘りとなり、子  
ども達は掘った芋を手にし  
て大きな歓声を上げていま  
した。

小さいお子さんもお父さ  
んやお母さんと一緒に芋を  
掘り当て、嬉しそうに大き  
な声でお父さんやお母さん  
に報告していました。

1組7株の範囲で芋を掘り、  
予想以上の収穫に自分たち  
で用意したレジ袋には入ら  
ず、土嚢袋に入れて持ち帰  
りました。

芋掘りが終わった後、み  
んなでもみ殻で焼いた芋を  
参加者全員で頂き、美味し  
かつたのかおかわりする子  
ども達もいました。  
最後になりましたが、任  
意で参加してくださった担  
任の先生、教頭先生、有難  
うございました。



もみ殻に煙突を立  
て、芋を中に入れ  
て焼きました。

10月21日  
高瀧神社のお祭り



秋晴れに恵まれて恒例お  
神輿が順番にお宮から出ま  
す。平蔵郷は最後で高瀧神社の  
神輿が階段を降りる様は一  
番の見せ場です。見事な指揮者捌きで階段を  
降りる様は見事です。

## 上総いちばら国府祭り

9月29日（土）

台風接近による雨の予報  
に、祭り2日目が中止とな  
った国府祭り。

1日目も昼過ぎから雨が  
降り出し、中止かと思いき  
や練踊りは実施との判断に、  
女性陣は南総地区おそろい  
の黄色のTシャツの上に合  
羽を羽織り、練踊りの列に  
加わりました。

南総地区は人数もさることながら各町長が旗を振  
り下ろして女性たちを盛り  
上げていました。



# 高瀧神社秋季例大祭

## 秋の訪れ



暑かつた夏も過ぎ去ろうとしているある日のこと、近隣の耕作跡地に行つてみた。遠方の竹林・杉林は各々緑を保ち続けている。

早朝の陽を浴びている荒地であつたが、そこに生い茂るある種の花が目に映つた。これから目を覚まそうとする花びら、既に往年の活動を終え去り行く花びら、すがすがしい朝にもかかわらず疲れ果て花びらを開く気力・体力も持ち備えておらず、唯うなだれているそれ。

耕作者は、この花にいつまでも咲き続けてほしいと願い、刈り込みの手を止めこの花を残したのだろうか。

何故かこの世に生命を受けたものの成り行きを感じさせられた心に残る一光景であった。

## 秋の収穫

昭和四十年代半ばまでは平三地区においても至るところで目にしていた光景であるが、最近はほとんど見ることもなくくなってしまった。

真夏の太陽を浴び、台風の影響を受けることもなく、また、害をもたらす鳥獸に荒らされることもなく素直に育つていた。

十月初旬に稻刈りが終わり写真で見るよう竿竹に天干しされていた。県内で生産されている「いすみ米」や「多古米」にも引けを取らず、新潟の魚沼産こしひかり「金之助」にも勝るかもしれない市原の『こしひかり』。



帰り際、通りがかりの老夫婦が車から降りて来て写真に収めていた。

(取材子)

生産農家の主は、「自然の恵みに感謝しつつ、世界に誇れる超一流のコメをこの市原から生産したい」と自信ありげに語った。

### 編集後記

「毎年の年賀状ですが年限りで失礼させていただきます」

そんな一文を年始の挨拶に添える終活年賀状が広がりつつあるという。人間関係を整理したい、高齢だからと理由は様々あると思うが、古くからの慣習が失われていくのは寂しいと感じてしまう。

新穂の匂いが鼻につく。



当日は各地区的代表（役員）九名が参列し、事前整備の後それぞれの胸中を抱き英靈に対しても敬意を表しました。

## 戦没者慰霊祭

八月十五日午前八時から旧平三小学校東側に建立されている忠魂碑前に

おいて、宮田市郎治実行委員長統制のもと平三地区戦没者八十二名に対する慰霊祭が厳粛に執り行われました。

た。